

# 第6次粕屋町総合計画策定にかかる基礎調査 【概要報告資料】

# 基礎調査の概要

## 調査分野及びベンチマーク都市について

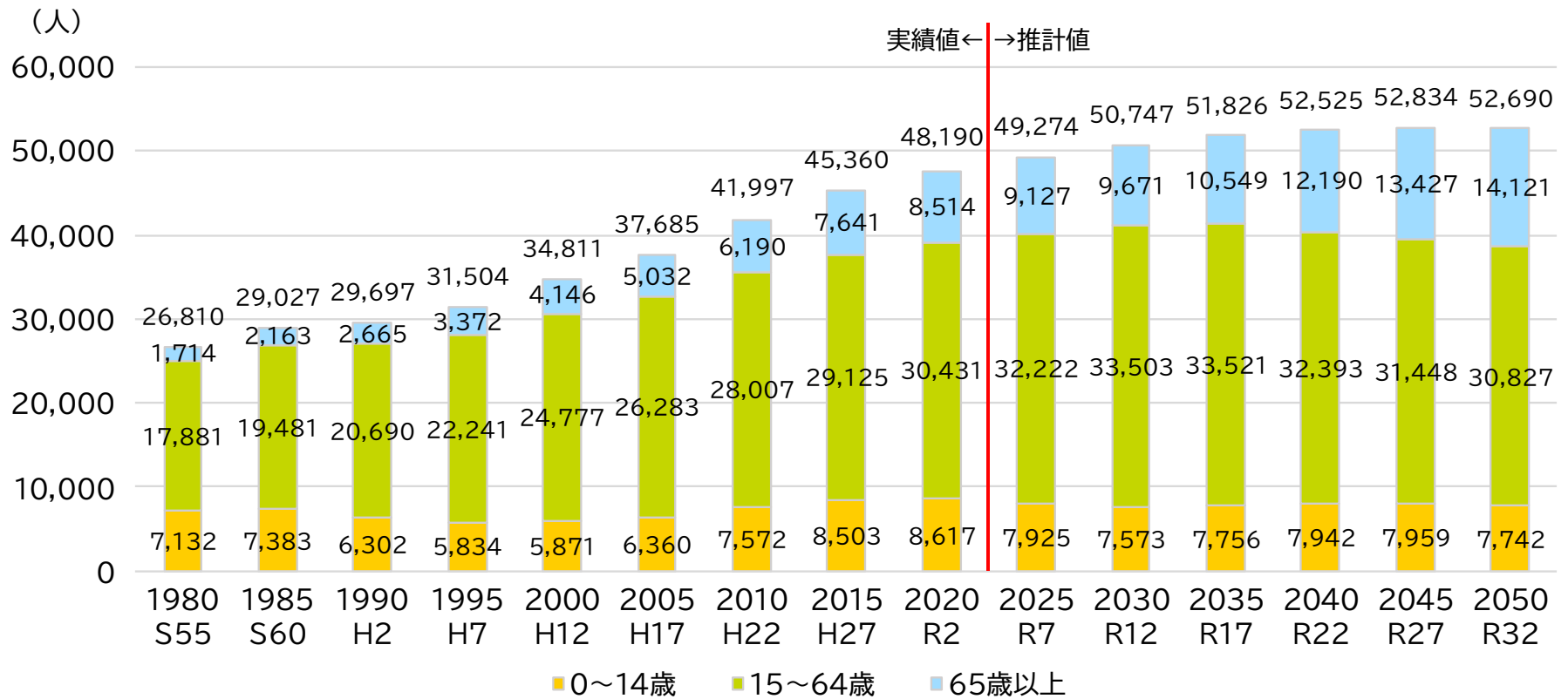
- 「人口」、「産業・経済」、「子育て・教育」、「医療・福祉」、「生活環境」、「行政」の6分野について調査を行いました。
- 下表のとおり、粕屋町の各データとの比較対象としてベンチマーク都市を設定し、調査を行っています。

NO.	都道府県	団体名	備考
1	福岡県	古賀市	糟屋地域
2	福岡県	宇美町	糟屋地域
3	福岡県	篠栗町	糟屋地域
4	福岡県	志免町	糟屋地域
5	福岡県	須恵町	糟屋地域
6	福岡県	新宮町	糟屋地域
7	福岡県	久山町	糟屋地域
8	福岡県	筑紫野市	福岡都市圏
9	福岡県	春日市	福岡都市圏
10	福岡県	大野城市	福岡都市圏
11	福岡県	宗像市	福岡都市圏
12	福岡県	太宰府市	福岡都市圏
13	福岡県	福津市	福岡都市圏
14	福岡県	糸島市	福岡都市圏
15	福岡県	那珂川市	福岡都市圏、人口が粕屋町と同規模かつ人口増加率がプラス
16	茨城県	阿見町	人口が粕屋町と同規模かつ人口増加率がプラス、近年人口5万人を達成
17	福岡県	福岡市	グラフの一部で比較

# I.人口

## 総人口と人口構成の推移

- ▶ 町の人口は1980(昭和55)年以降、一貫して増加しており、2045(令和27)年まで増加し、2050(令和32)年はやや減少する見込みとなっています。
- ▶ 15～64歳人口は1980(昭和55)年以降増加が続いており、2035(令和17)年まで増加し、その後減少していく見込みです。
- ▶ 65歳以上人口は一貫して増加しており、2045(令和27)年には13,000人を超え、全体の4分の1以上となる推計となっています。



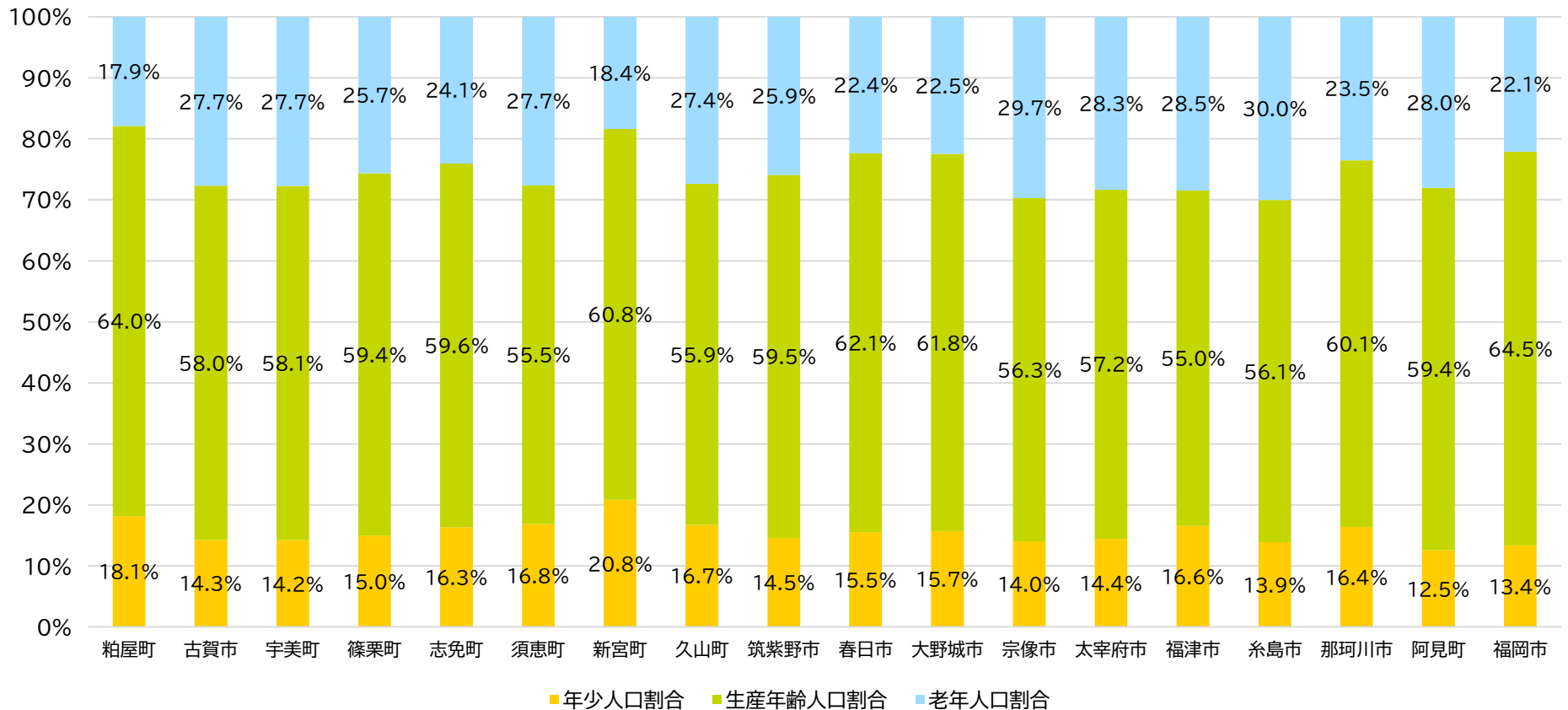
※総人口は不詳人口込みの数字ため、各年齢別人口の合計値と総人口は必ずしも一致しない

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

# I.人口

## 人口の年齢構成の比較(2020年)

- 人口の年齢構成を比較すると、粕屋町は15～64歳の生産年齢人口の割合が64%と、ベンチマーク都市の中で福岡市に次いで2番目に高くなっています。0～14歳の年少人口割合も18.1%で新宮町に次いで2番目に高い水準です。
- 65歳以上の老年人口の割合は17.9%でベンチマーク都市の中では最も低く、粕屋町は少子高齢化の進行が他都市よりも比較的遅いと考えられます。

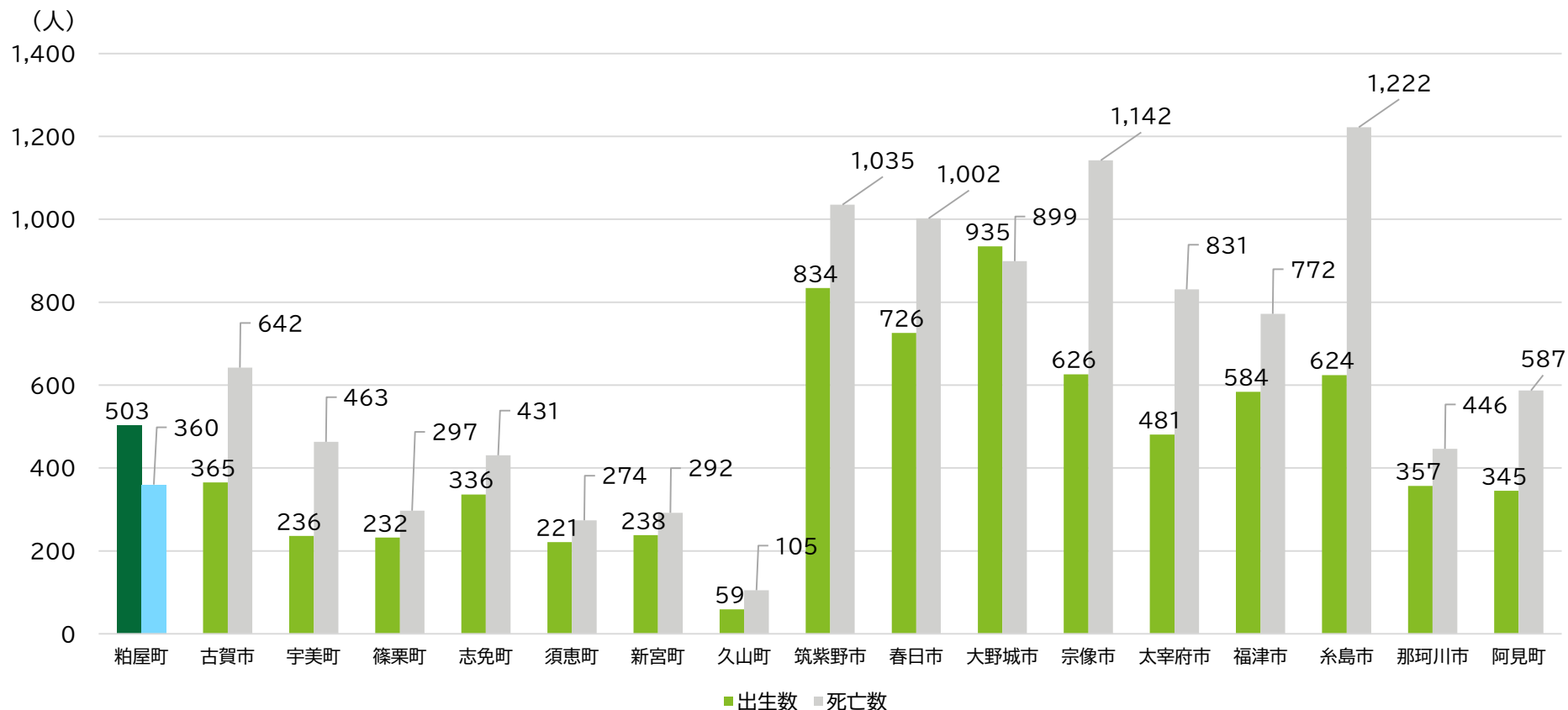


出典:総務省「国勢調査」

# I.人口 -自然増減-

## 出生数・死亡数の比較(2023年)

- ▶ 粕屋町は出生数が死亡数を上回る自然増の状態であり、ベンチマーク都市の中で自然増となっているのは他に大野城市のみとなっています。
- ▶ 死亡数が出生数の倍程度になっている市町もある一方で、粕屋町は出生数が死亡数を140人程度上回っており、他都市よりも出生数が多く、死亡数が少ないことがよみとれます。

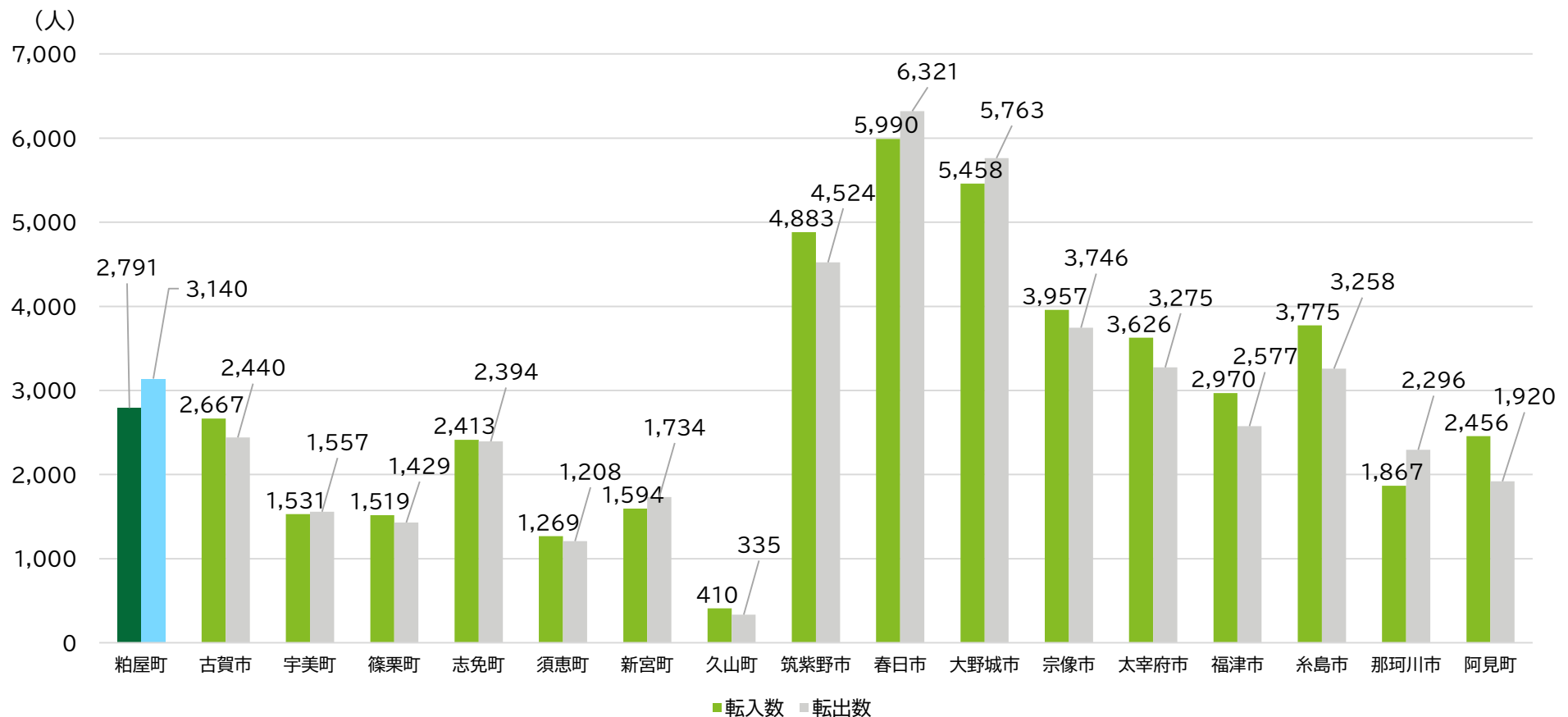


出典:厚生労働省「人口動態調査」

# I.人口 -社会増減-

## 転入数・転出数の比較(2023年)

- ▶ 粕屋町は2023(令和5)年時点では転出数が転入数を上回る社会減の状態であり、糟屋地域の中では他に宇美町と新宮町が社会減となっていますが、粕屋町は転入数と転出数に約300人の差があり、社会減の影響は大きいといえます。
- ▶ 福岡都市圏をみても比較的社会的増になっている都市は多く、自然増が強い粕屋町において社会増減は今後課題となる可能性があります。

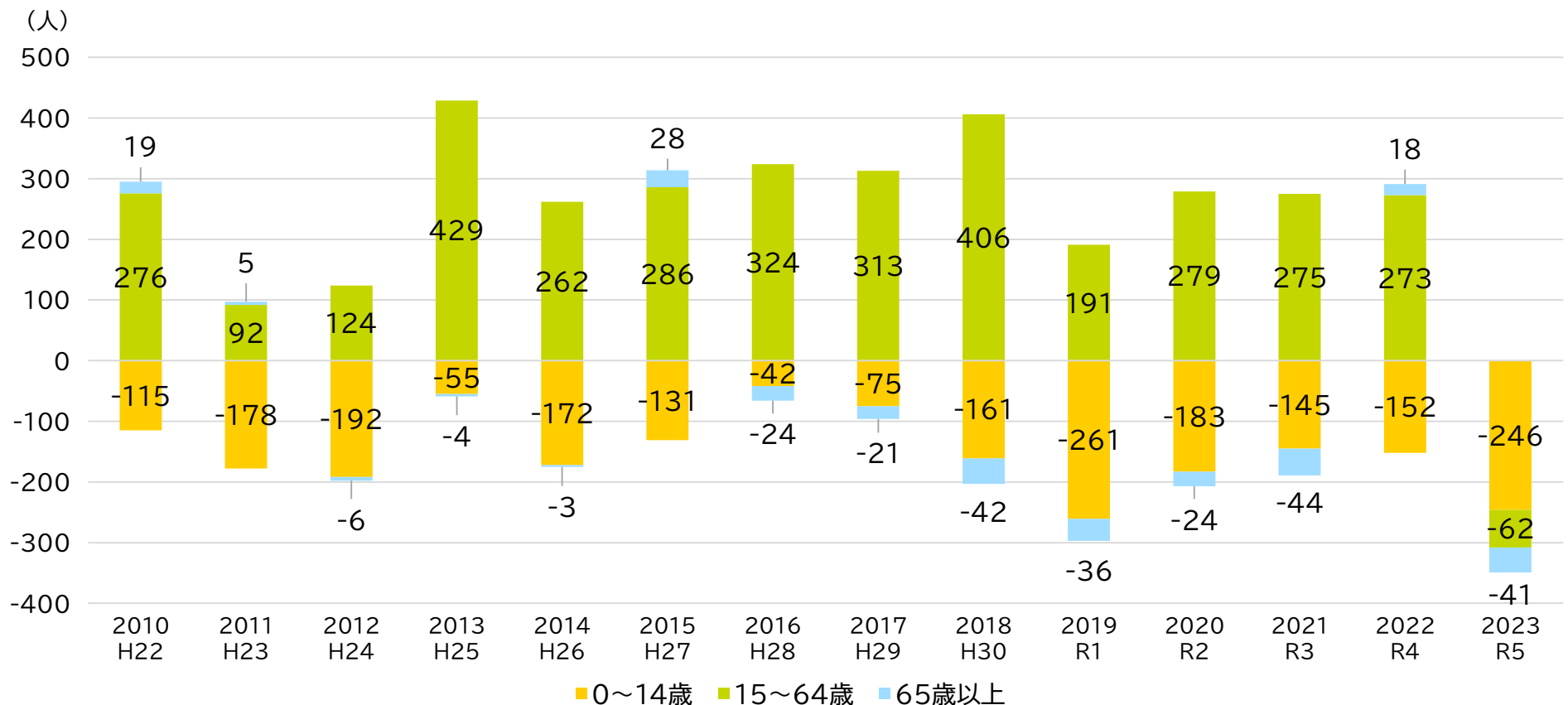


出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」

# I.人口 -社会増減-

## 年齢階級別人口移動の推移

- 年齢別で人口移動をみると、2010(平成22)年以降一貫して転出超過となっているのは0～14歳の年少人口であり、2019(令和元)年には261人の転出超過となっています。15～64歳の生産年齢人口は一貫して転入超過傾向が続いていたが、2023(令和5)年に2010(平成22)年以降初めて転出超過となりました。
- 2022(令和4)年までは全体的に転入超過傾向であったが、2023(令和5)年に一気に転出超過に転じており、2024(令和6)年以降の動向を踏まえた社会減少対策を取る必要があると考えられます。

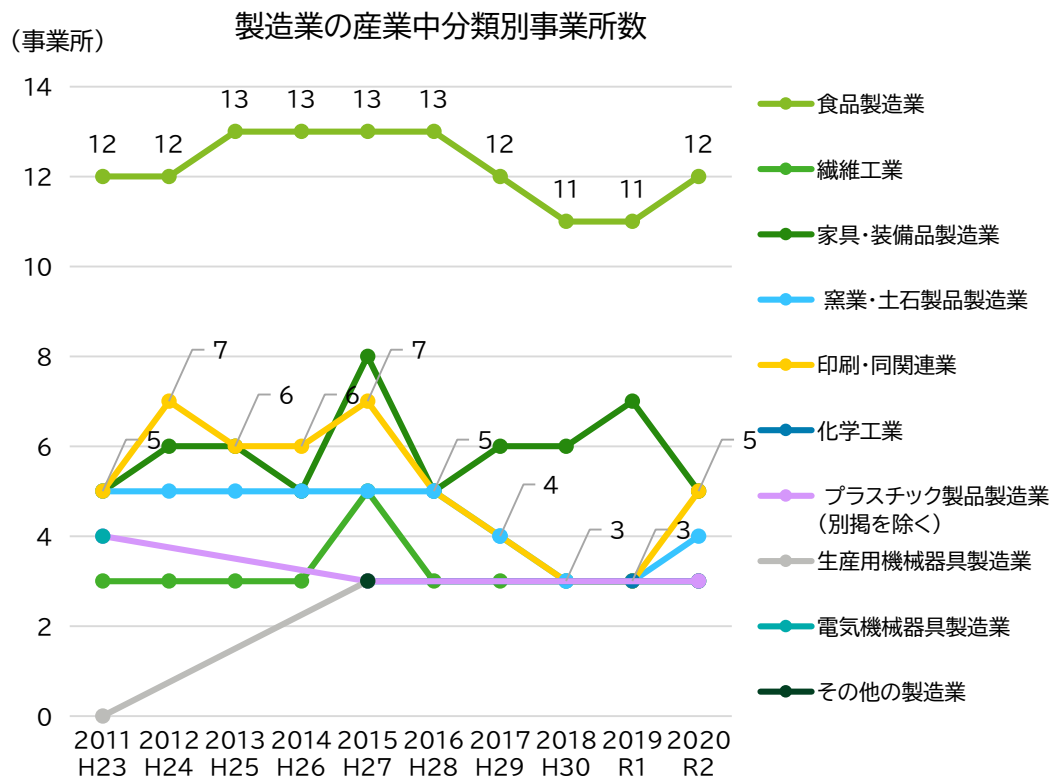


出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」

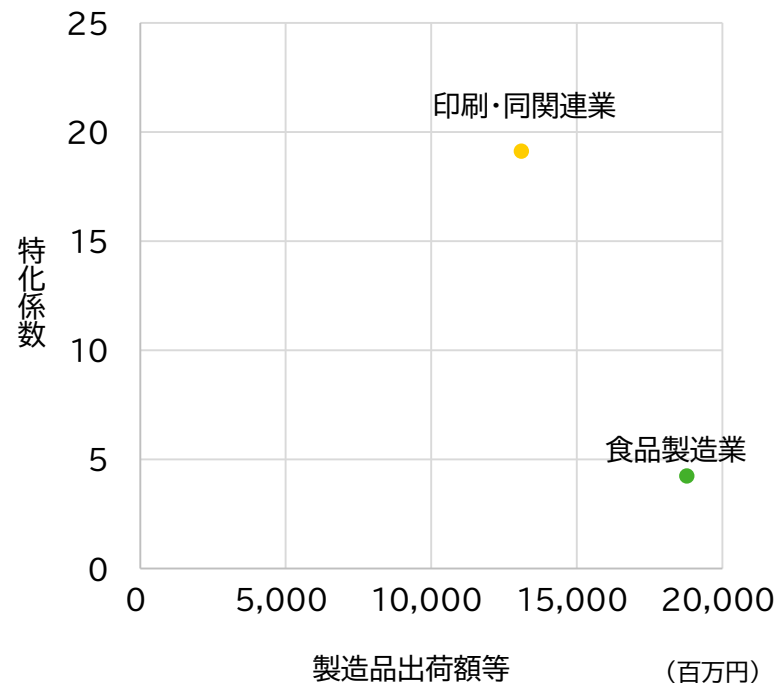
## Ⅱ.産業・経済 -製造業-

### 製造業の産業中分類別事業所数の推移及び製造品出荷額等特化係数

- ▶ 産業中分類別の事業所数では食品製造業が最も多く、変動もあるものの比較的安定しており、今後も粕屋町において重要な産業となっていくと考えられます。
- ▶ 印刷・同関連業は2015(平成27)年以降減少の傾向であったが、2020(令和2)年は増加に転じています。
- ▶ 2020(令和2)年の製造品出荷額等でみると、特化係数1を超え全国に対して特化していると考えられる産業のうち、最も高いのが印刷・同関連業で、製造品出荷額等も100億円を超えており、粕屋町の強みの産業となっていることが推察されます。
- ▶ 食品製造業も特化係数2を超え、出荷額も高いことから、重要な産業だと考えられます。



製造品出荷額等と対全国特化係数(2020年)



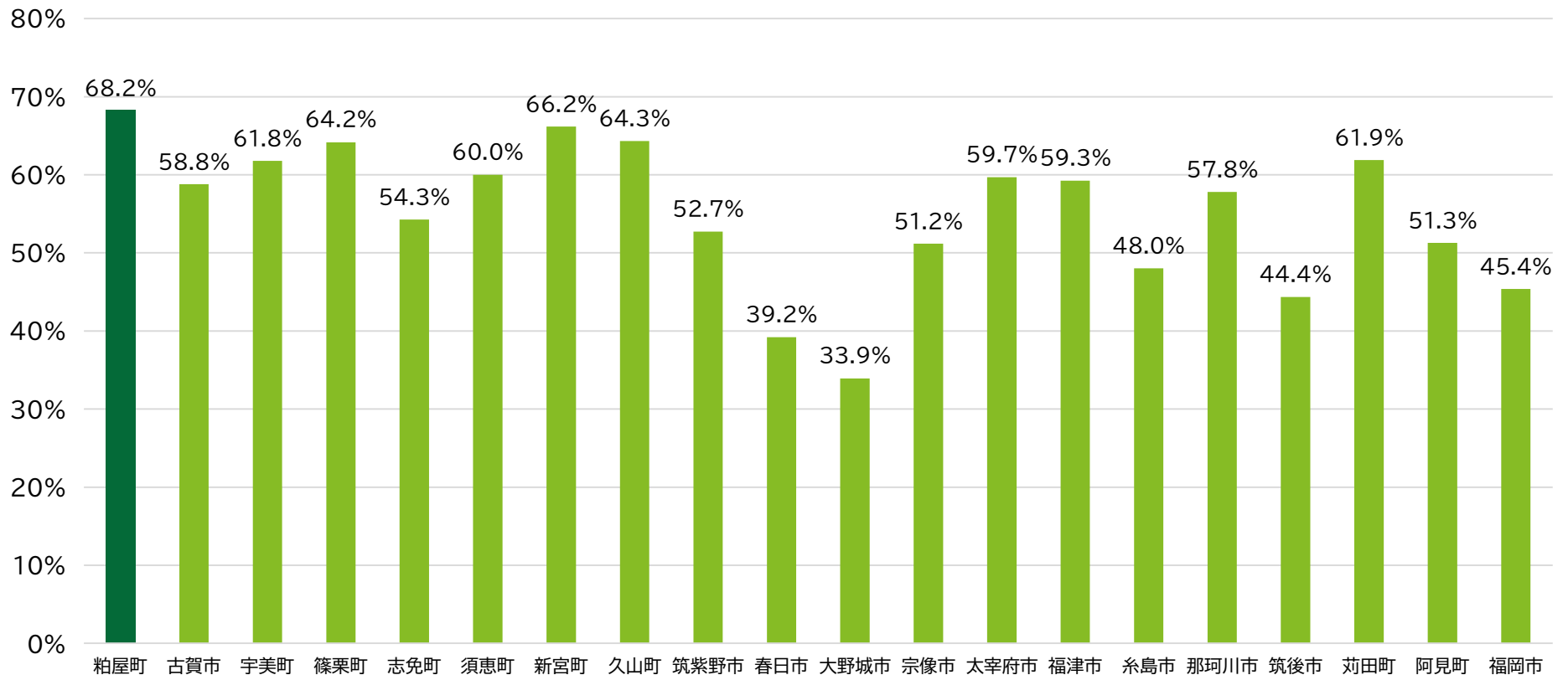
出典:経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」



## Ⅱ.産業・経済 -農業-

### 農業就業者数に占める65歳以上の就業者割合の比較(2020年)

- 粕屋町の農業就業者数に占める65歳以上の就業者割合は、68.2%でベンチマーク都市の中で最も高い水準です。
- 粕屋町全体の高齢人口割合は他市と比較して少ないが、農業分野では高齢化の影響を受けていると考えられます。



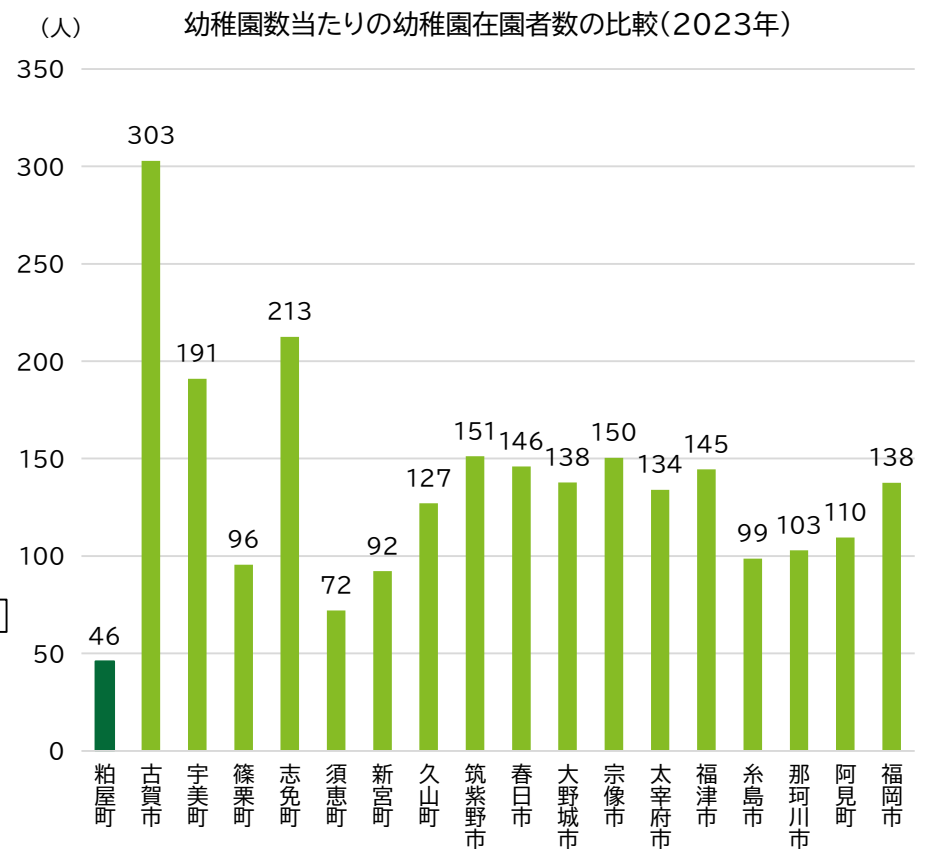
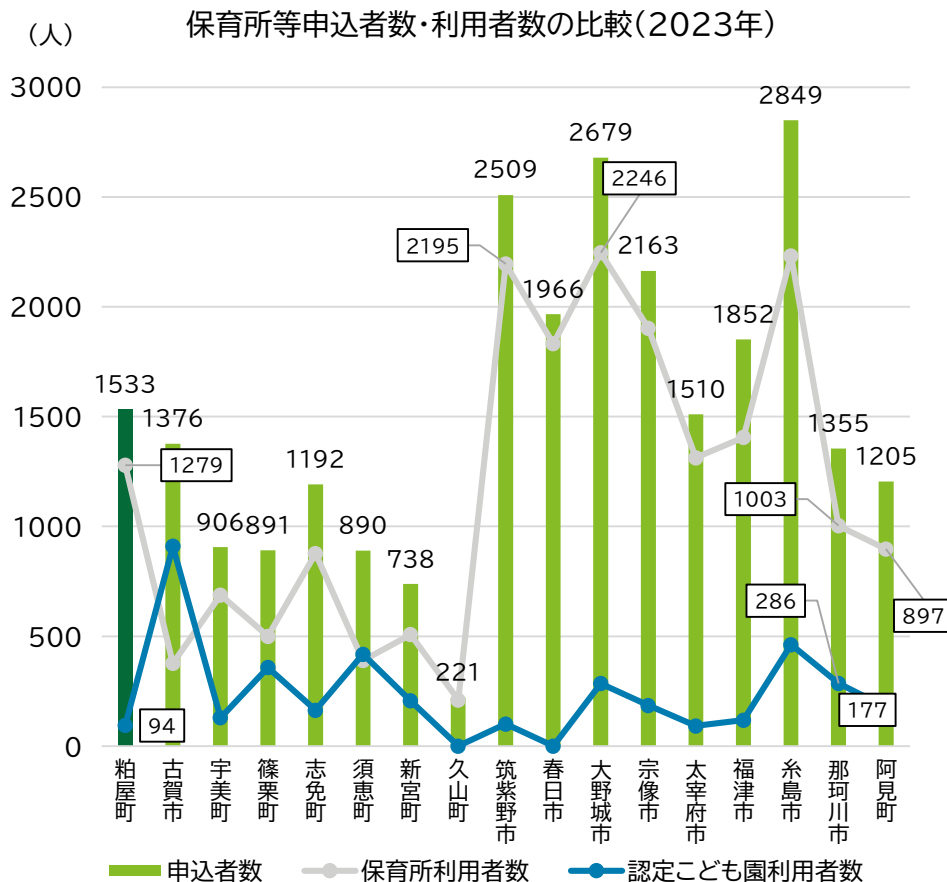
※就業者とは、賃金、給料、諸手当、営業収益、手数料、内職収入など収入(現物収入を含む)を伴う仕事を少しでもした人のこと  
家族の人が自家営業(個人経営の農業や工場・店の仕事など)の手伝いをした場合、無給であっても収入を伴う仕事をしたこととして就業者に含めている

出典:総務省「国勢調査」

# III.子育て・教育

## 保育所等申込者数・利用者数及び幼稚園数当たりの幼稚園在園者の比較(2023年)

- ▶ 粕屋町における保育所等申込者数は1,533人であり、そのうち保育所利用者数は1,279人、認定こども園利用者数は94人でした。
- ▶ 粕屋地域の中では最も高い水準であり、人口が同規模の志免町、那珂川市、阿見町を上回っていることから、保育所等の利用を希望している人が多いと考えられます。
- ▶ 粕屋町における幼稚園数当たりの幼稚園在園者数は46人であり、ベンチマーク都市の中では最も少ないです。



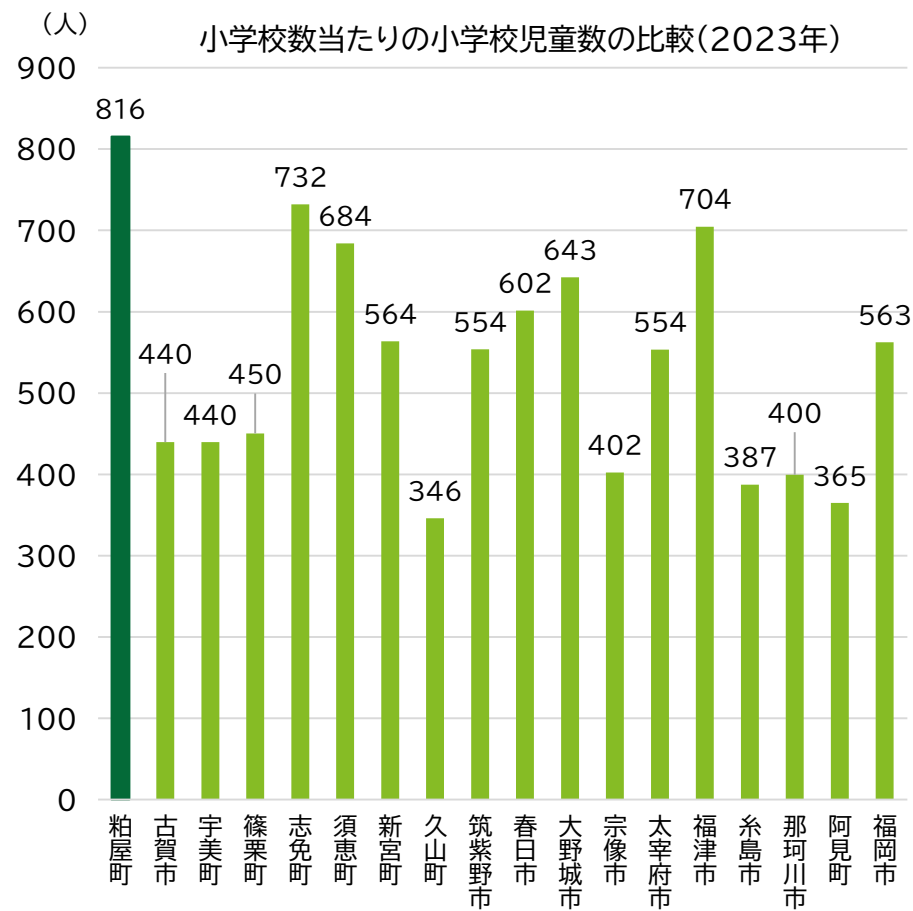
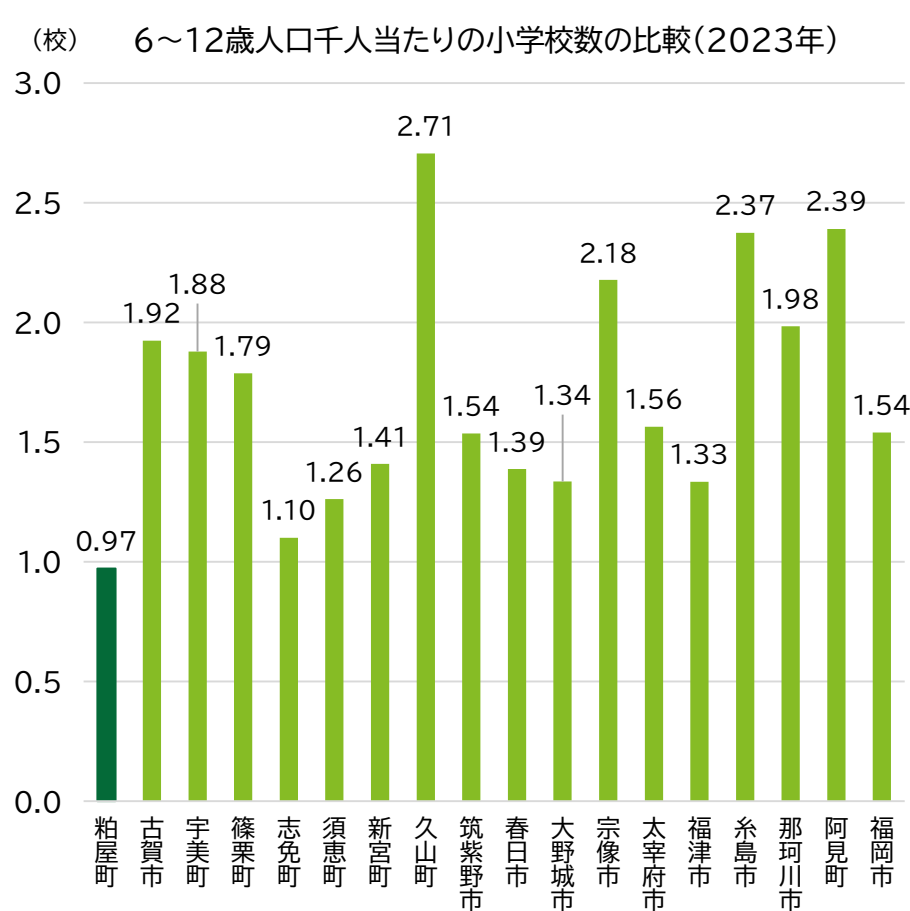
※幼保連携型認定こども園を含まない

出典:こども家庭庁「保育所等関連状況取りまとめ」、文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育

## 6～12歳人口千人当たりの小学校数の比較及び小学校数当たりの小学校児童数の比較(2023年)

- ▶ 粕屋町における6～12歳人口千人当たりの小学校数は0.97校であり、ベンチマーク都市の中で最も少ないです。
- ▶ 粕屋町における小学校数当たりの小学校児童数は816人であり、ベンチマーク都市の中で最も多いです。
- ▶ 児童数に対して小学校数が少ないことが考えられます。

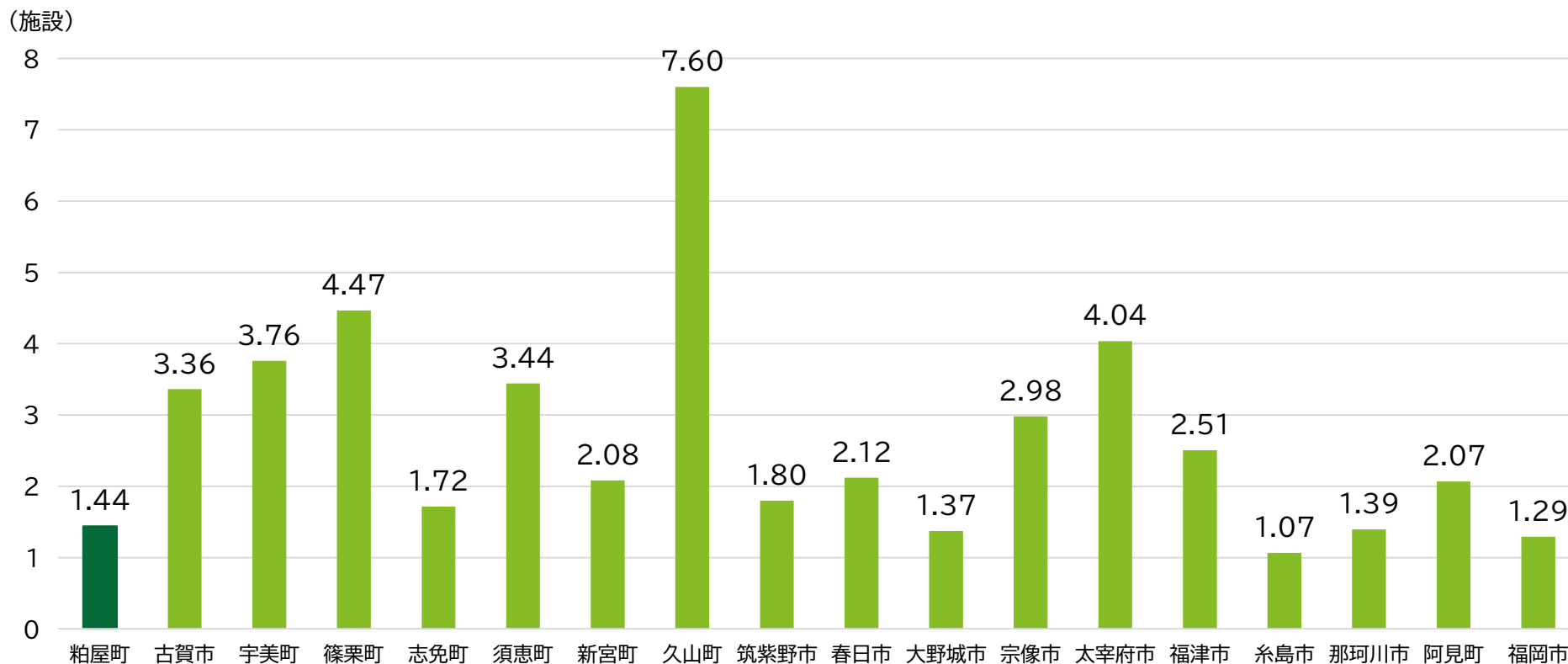


出典:文部科学省「学校基本調査」

# III.子育て・教育

## 人口1万人当たりの社会体育施設数の比較(2021年)

- ▶ 社会体育施設数を人口当たりで見ると、粕屋町は1.44でベンチマーク都市の中では比較的少ない方であることがわかります。
- ▶ 人口が粕屋町より少ない宇美町や篠栗町は粕屋町の倍の施設数であるため人口当たりの施設数も多くなっており、粕屋町における社会体育施設の整備については検討の余地があります。



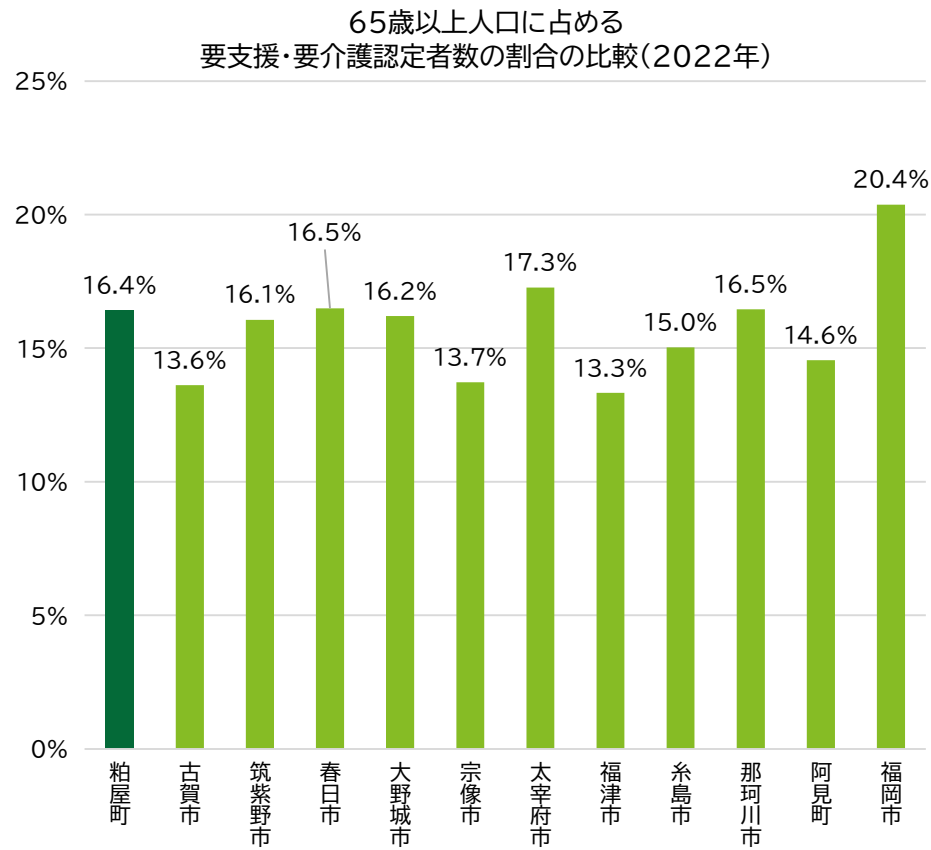
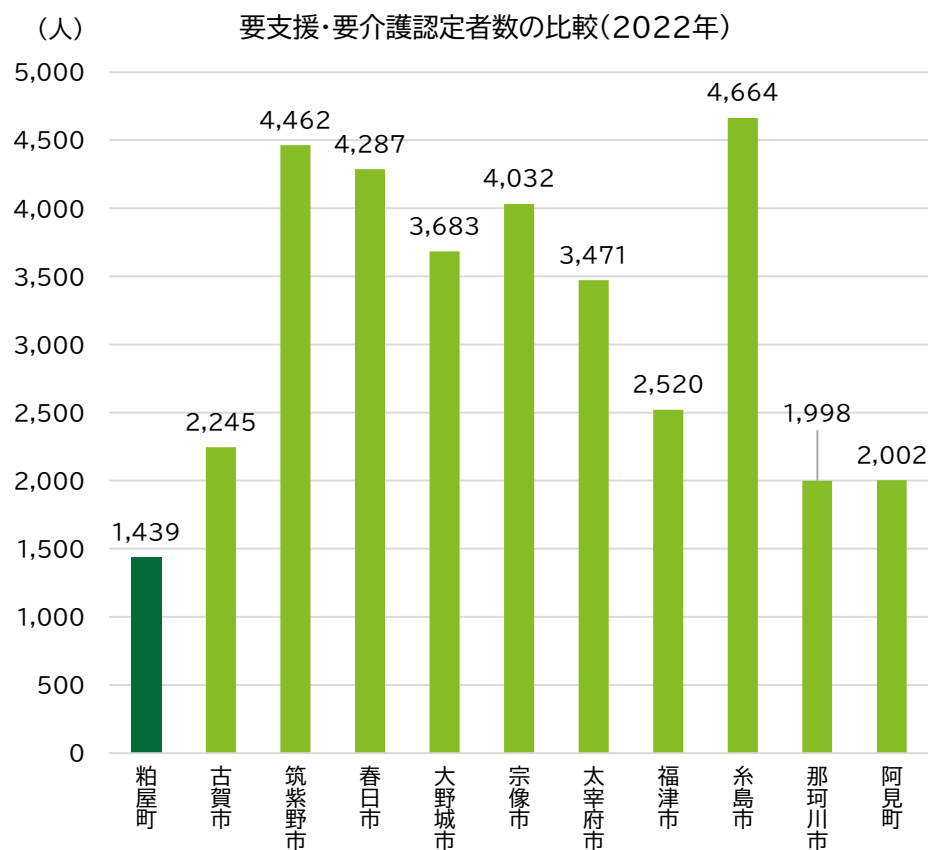
※社会体育施設とは、一般の利用に供する目的で地方公共団体、独立行政法人又は民間が設置した体育館、水泳プール、運動場等のスポーツ施設  
人口当たりの数値は2021(令和3)年12月末の住民基本台帳人口を基に算出

出典:文部科学省「社会教育調査」

# IV.医療・福祉 -介護-

## 要支援・要介護認定者数及び65歳以上人口に占める要支援・要介護認定者数の割合の比較(2022年)

- 粕屋町の要支援・要介護認定者数の合計は1,439人であり、ベンチマーク都市の中では最も少ないです。
- 粕屋町の65歳以上人口に占める要支援・要介護認定者数の割合は16.4%であり、ベンチマーク都市の中では春日市や那珂川市と同水準で、古賀市や宗像市、福津市などを大きく上回っています。
- 実数値は低いものの人口当たりで比較すると他市町と同程度の水準で、要支援・要介護者の課題は今後の重要なテーマといえます。



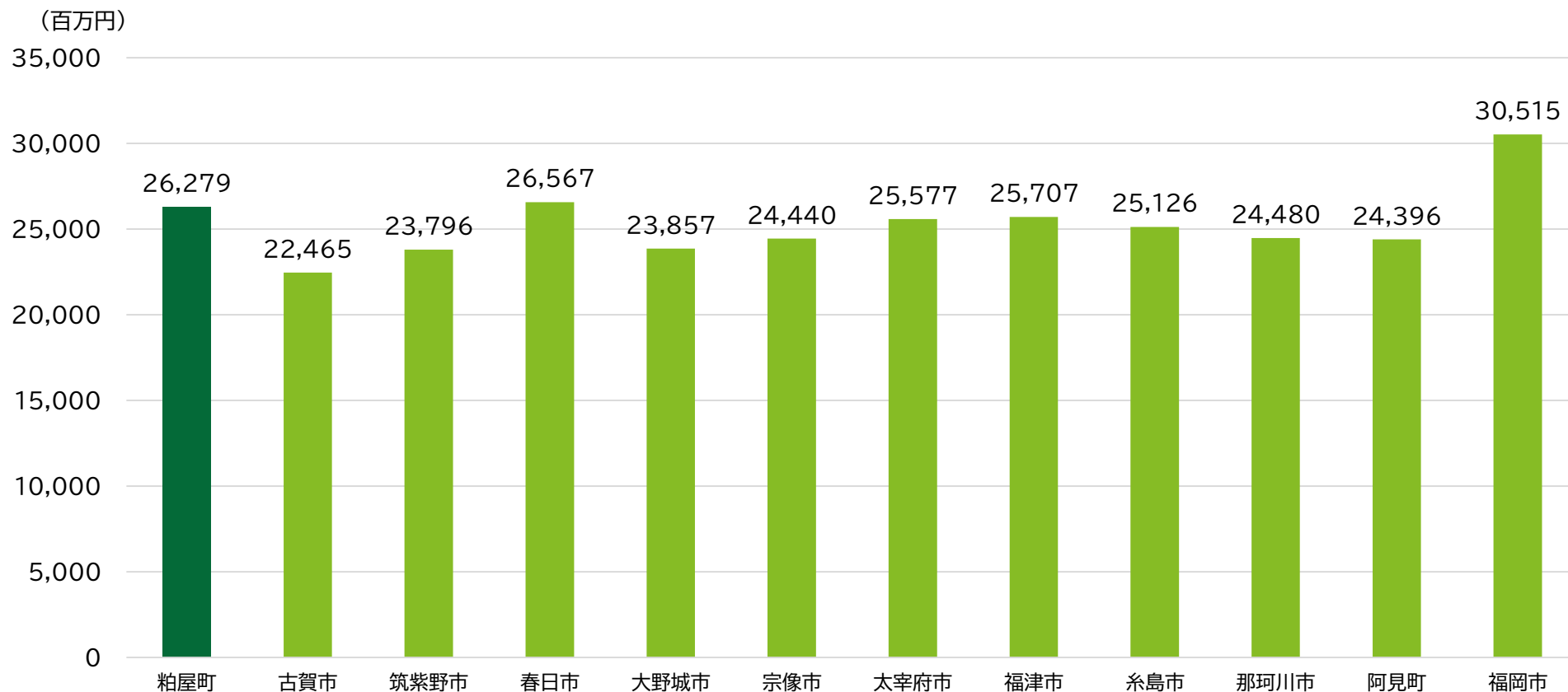
※宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町はデータなし。2022(令和4)年12月末の住民基本台帳人口を基に算出

出典:厚生労働省「介護保険事業状況報告」

# IV.医療・福祉 -介護-

## 65歳以上人口10万人当たりの介護費用(2021年)

- ▶ 粕屋町の65歳以上人口10万人当たりの介護費用は約260億円であり、ベンチマーク都市の中では福岡市、春日市に次いで3番目に高いです。
- ▶ 福岡市を除くベンチマーク都市はほぼ同水準であるが、粕屋町と古賀市では約40億円の差があり、粕屋町の介護費用の負担は比較的高いと考えられます。



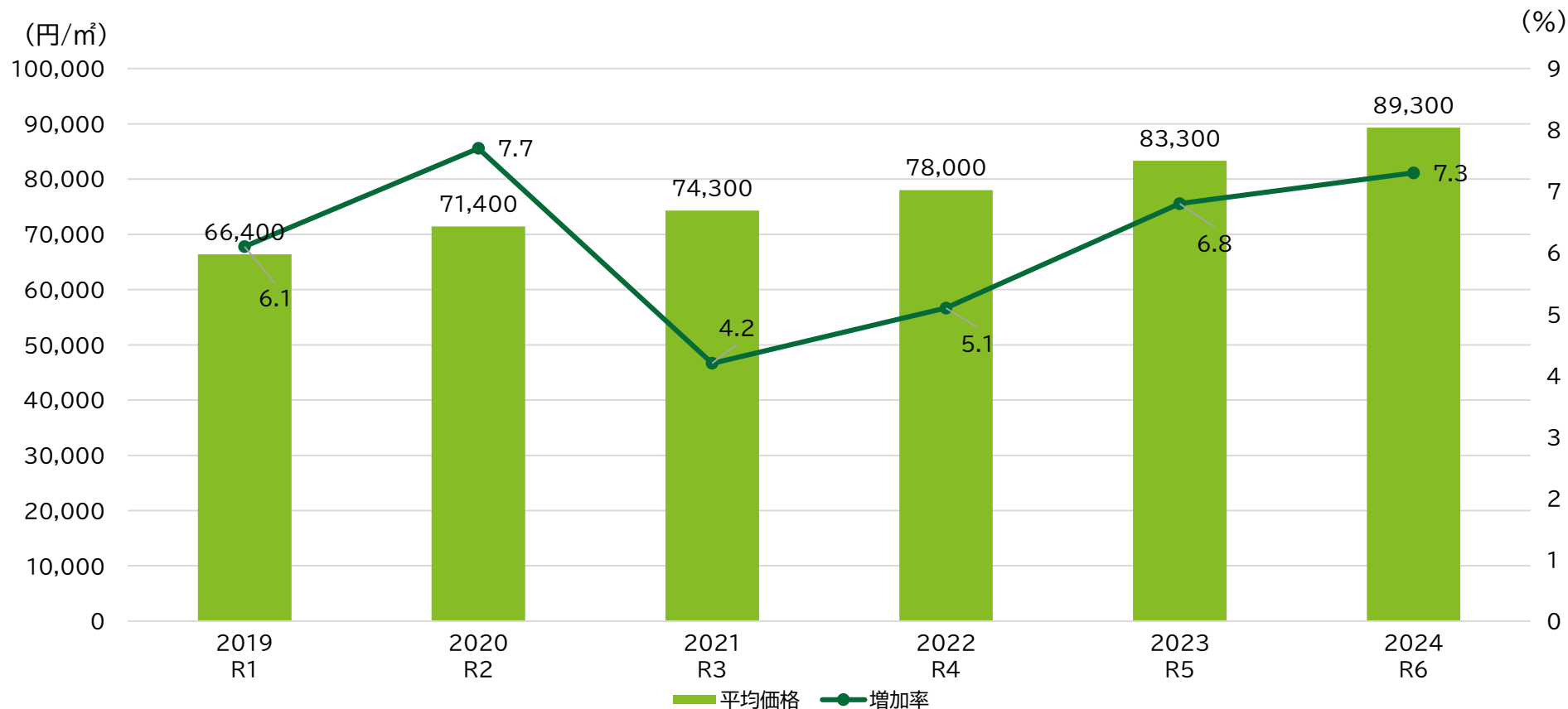
※宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町はデータなし

出典:厚生労働省「地域包括ケア『見える化』システム」、総務省「国勢調査」、「人口推計」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

# V.生活環境 -土地-

## 住宅地平均価格の推移

- 粕屋町の住宅地の1平方メートル当たり平均価格は、2019(令和元)年以降一貫して増加しており、増加率も4～7%台と、年々大きく増加しています。
- 直近5年間で2万円以上増加しており、粕屋町の住宅地価格は急激に高騰しているといえます。

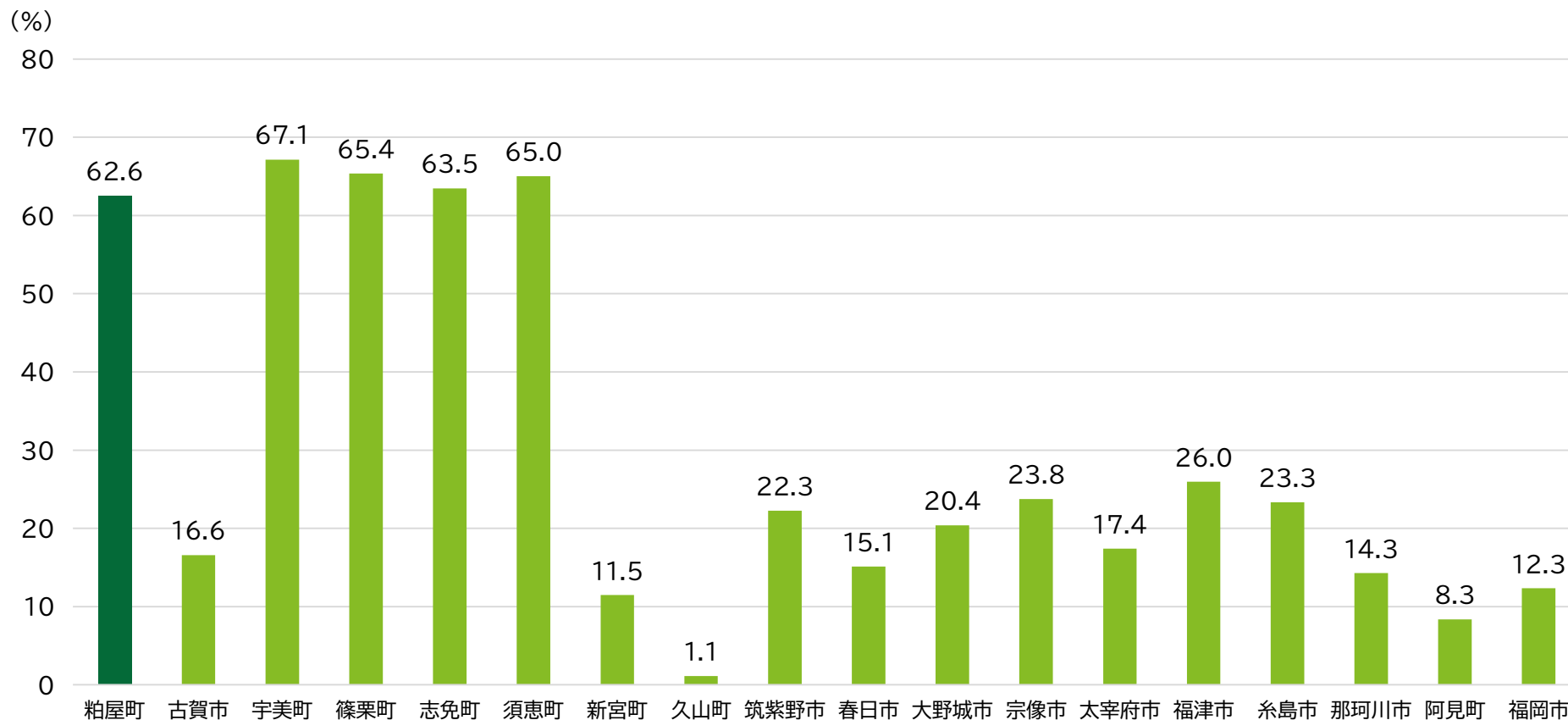


出典:国土交通省「地価公示」

# V.生活環境 -環境-

## リサイクル率の比較(2022年)

- 粕屋町のリサイクル率は62.6%で、ベンチマーク都市の中では宇美町、篠栗町、須恵町、志免町に次いで5番目に高いです。
- 古賀市、新宮町、久山町を除く糟屋地域はリサイクル率が60%を超えており、福岡都市圏の地域や阿見町などと比べてもかなり高いことから、糟屋地域のリサイクルに関する取り組みは他地域より進んでいる状況です。



出典：環境省「一般廃棄物処理実態調査」

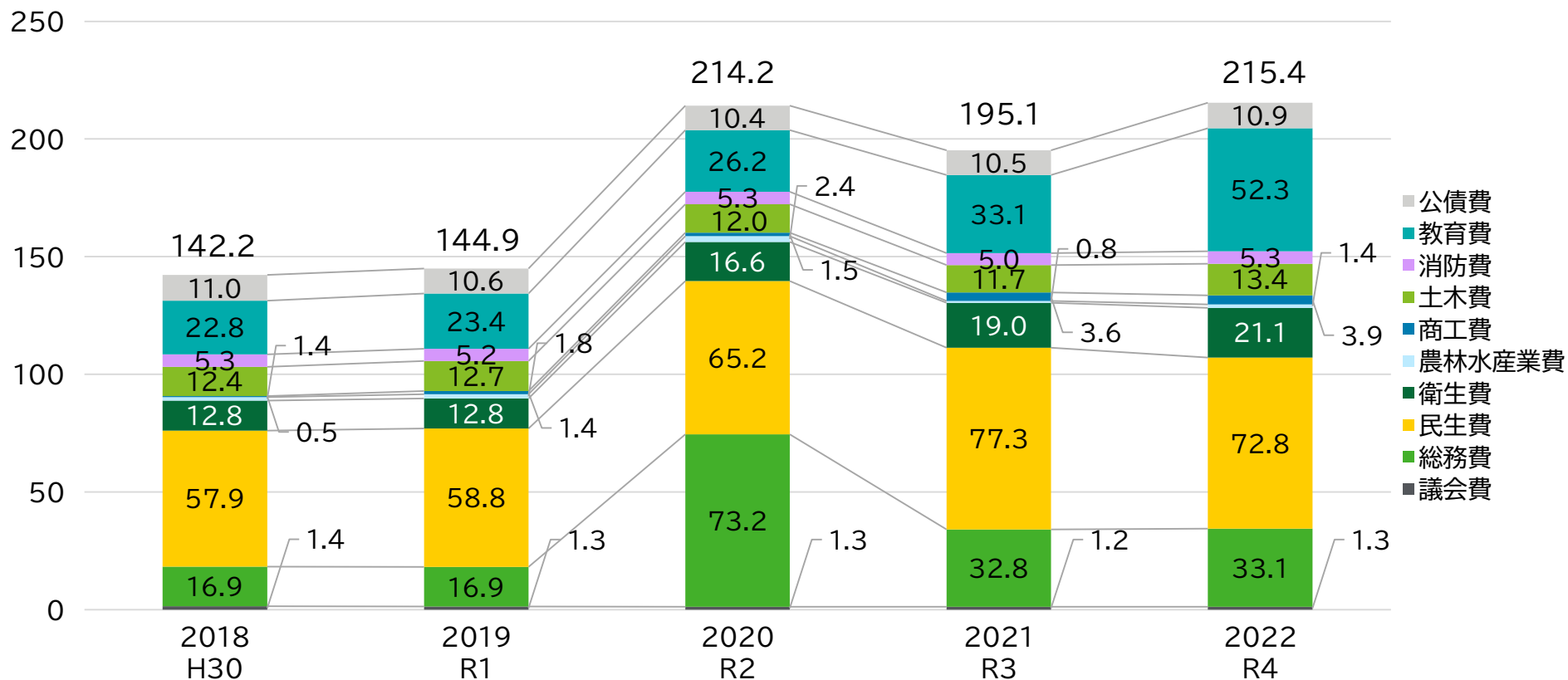


# VI.行政 -財政-

## 歳出決算額と目的別内訳の推移

- 歳出決算額は歳入同様、2020(令和2)年度に大きく増加した後、2021(令和3)年度は減少するが2022(令和4)年度に再び増加し、2020(令和2)年度を上回る歳出決算額となっています。
- 目的別内訳で見ると、2020(令和2)年度に総務費が大きく増加していますが、2021(令和3)年度には半分以下となっています。一方、2020(令和2)年度以降民生費と教育費が増加しており、これらが全体の決算額を押し上げていると考えられます。

(億円)

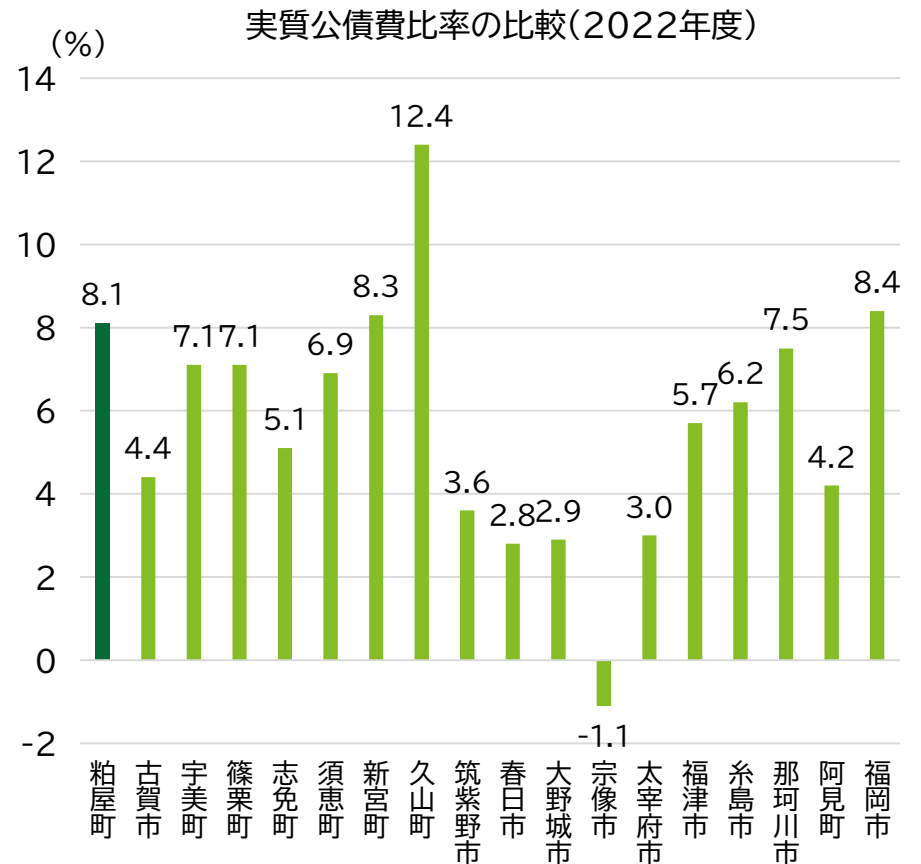
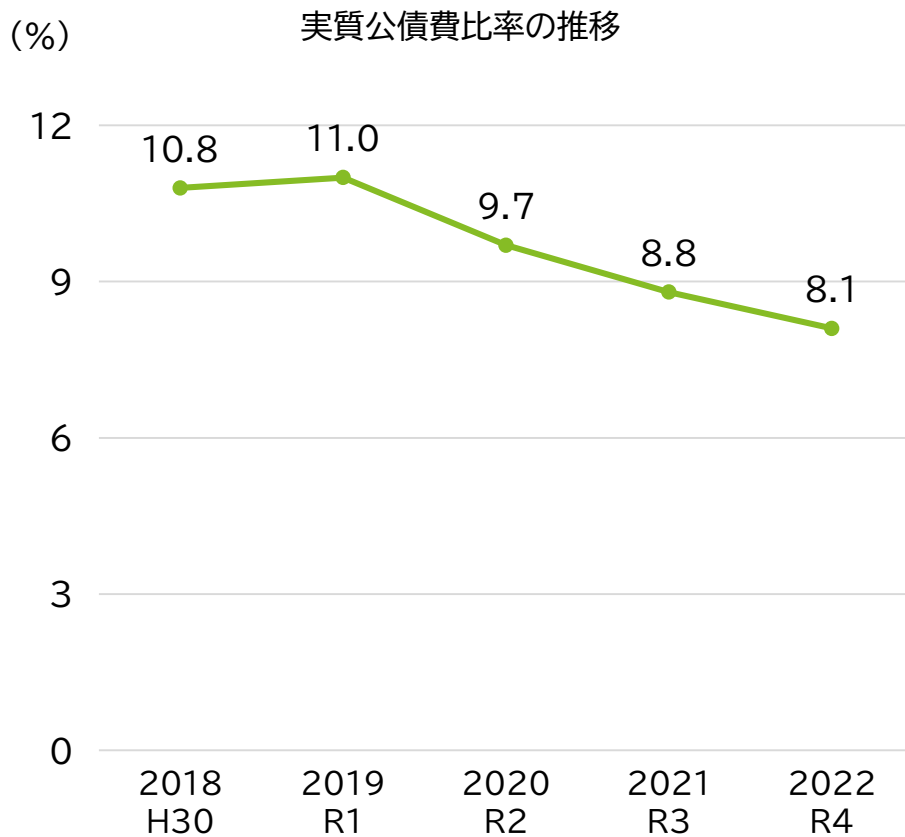


出典:総務省「財政状況資料集」

# VI.行政 -財政-

## 実質公債費比率の推移と比較

- ▶ 実質公債費比率は2019(令和元)年度以降減少傾向にあり、2022(令和4)年度には8.1%となっています。
- ▶ ベンチマーク都市の中では久山町、福岡市、新宮町に次いで4番目に高く、公債費の比率は比較的高くなっています。

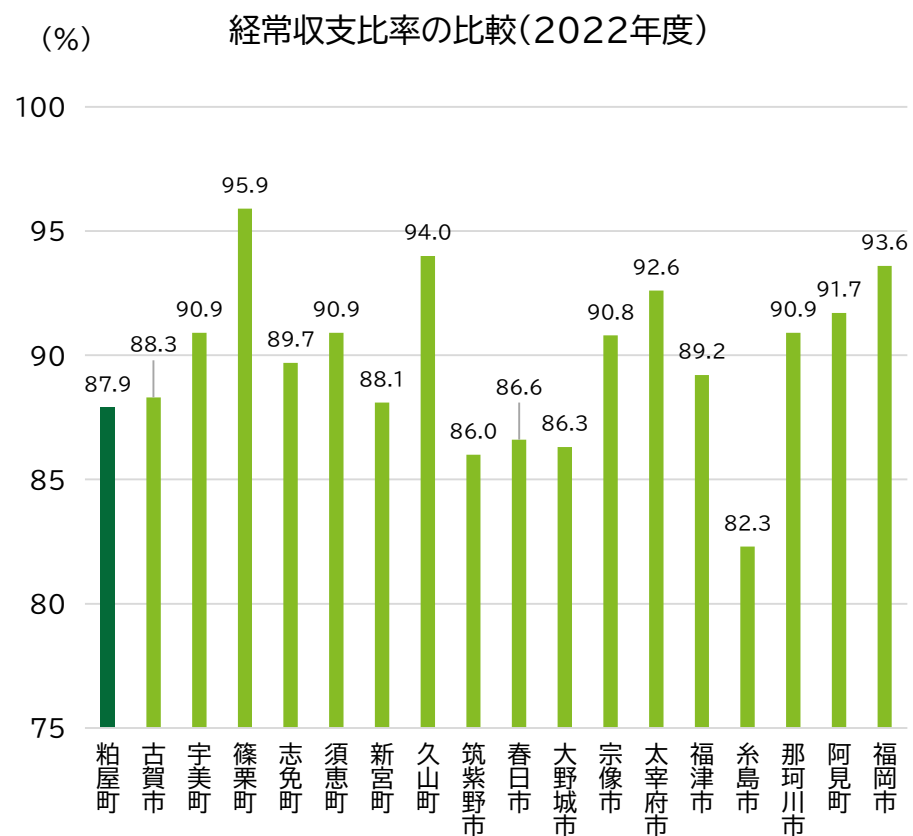
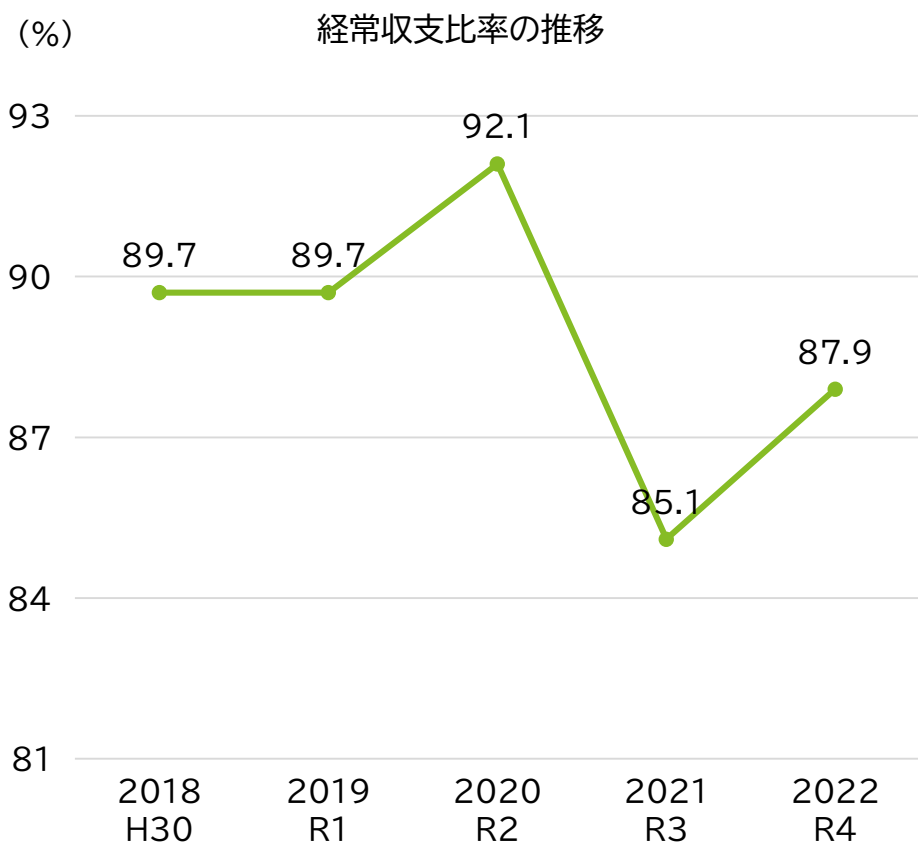


出典：総務省「財政状況資料集」、「市町村別決算状況調」

# VI.行政 -財政-

## 経常収支比率の推移と比較

- ▶ 粕屋町の経常収支比率は2020(令和2)年度に90%を超えるものの2021(令和3)年度には85%まで下がっており、2022(令和4)年度には87.9%となっています。
- ▶ ベンチマーク都市と比較すると、糸島市、筑紫野市、大野城市、春日市に次いで低く、比較的財政の硬直性は低いです。



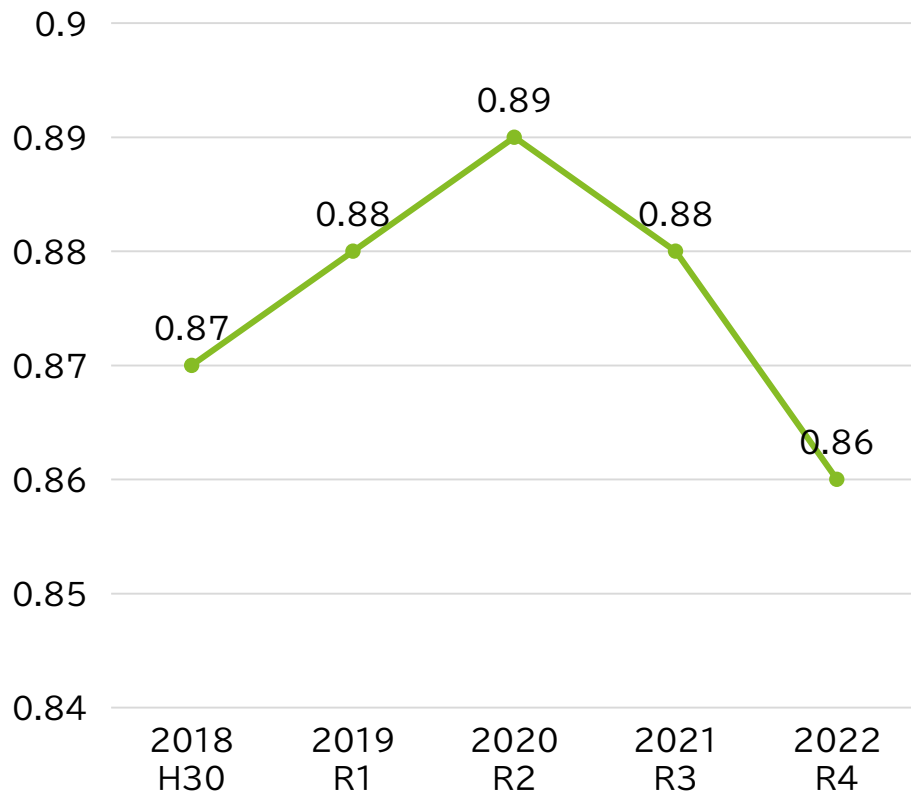
出典：総務省「財政状況資料集」、「市町村別決算状況調」

# VI.行政

## 財政力指数の推移と比較

- 財政力指数は0.88前後を推移しており、2022(令和4)年度には0.86となっています。
- ベンチマーク都市の中では阿見町、福岡市に次いで高く、新宮町と同数となっています。
- 粕屋町の財政力には喫緊で大きな課題はないと捉えることができます。

財政力指数の推移



財政力指数の比較(2022年度)



出典：総務省「財政状況資料集」、「市町村別決算状況調」